

■発行：特定非営利活動法人 調布まちづくりの会

e-mail：mail@machikai.org <http://www.machikai.org/>



まち会だよりが、諸事情で滞っておりました。まずは、2013年秋冬号をお届けいたします。

「映画のまち調布」部会

部会レポート 宇根直次

「映画」を文化、産業両面から捉え、調布のまちづくりに結び付ける活動とは何かを考えるため、2006年1月に発足した部会です。

現在は、毎年8月を中心に行っている調布市共催平和祈念映画上映会への協賛や、'10年度から創設した中学生対象のシネマワークショップ「調布ジュニア映画塾」があります。特に「調布ジュニア映画塾」は、現在調布市で行なわれている「高校フィルムコンテスト」、社会人対象の「ショートフィルムフェスティバル」までの一貫した「映画をつくるまち」としての調布市ならではの特色のあるまちづくりに結びつけようとしています。

■ 2013年度調布市平和祈念事業 映画「黒い雨」上映会に協賛しました



期日：2013年8月25日(日) 10:30 14:00 18:30 3回

場所：調布市文化会館たづくり2階くすのきホール

入場料：一般・小中高生共前売り500円

当日一般700円 小中高600円

入場者：550人

<映画の概要>

映画『黒い雨』は、1965年に出版された井伏鱒二の小説『黒い雨』を今村昌平監督によって映画化されたものである。原子爆弾の恐怖と悲劇を描いたもの。一昨年の東日本大震災での福島第一原発事故が収束していない今、改めて被爆の恐ろしさを考えていただければ幸いである。

監督：今村昌平 1990年作品

出演：田中好子・北村和夫・市原悦子・原ひさ子・沢たまき ほか

主催：映画『黒い雨』上映実行委員会

毎回のことですが、この映画会は戦争を知らない中高生他若い世代の多くの方に鑑賞してもらい、戦争の悲劇を伝えたいと願ってきています。しかしながら、子供たちの映画館離れがあり、従来より高齢者の方がかなり多いというのが実情です。しかし今回は、時間帯により小学生を連れた親たちの姿も見られたことは非常に喜ばしいことでした。3.11 東日本大震災における福島第一原発事故が収束していない今、改めて被爆の恐ろしさを考えさせる映画でした。

■ 第4回中学生対象・シネマ体験ワークショップ「調布ジュニア映画塾」を実施しました

<ワークショップのねらい>

このワークショップは、プロの映画監督や技術者の指導のもと、企画から編集までの映画制作の全てを体験するものです。監督、撮影、録音、俳優、編集を、みんなで代わるがわる体験し、協力して完成させます。映画作りの中で創造力や表現力を養うと共に、仲間と協力し知恵を出し合って自分たちの作品を作り上げる達成感を味わうことができます。コミュニケーションや協働精神の大切さも学ぶことができます。成長過程にある子どもたちの社会人になるためのトレーニングとなり、自立精神を養うのに役立ちます。調布市が進めている「映画のまち調布」の事業のひとつとして、ふさわしいものと位置づけられると考えております。

<体験内容>

- 1 日目(7/23) ワークショップの説明と映画づくり工程の説明、物語の構成の仕方 カメラ・マイクの取り扱い方法 (次回までに脚本の原作となる作文を提出)
- 2 日目(7/30) 脚本の書き方の説明 各自の作文の発表 各自脚本の作成
- 3 日目(8/4) 脚本を完成させて提出
- 4 日目(8/6) 各自の脚本の発表 映画化する脚本2本決定 キャスト・スタッフ決定 演技指導
- 5 日目(8/7) 撮影するロケ地・必要な小道具・脚本細部の詰め ロケハン
- 6 日目(8/9) 撮影(喫茶室、中学校図書室など)
- 7 日目(8/11) 撮影(公園、個人住宅など)
- 8 日目(8/13) 撮影(たづくり前庭、中学校図書室など)
- 9 日目(8/14) ラッシュ試写 編集の仕方の説明 各自編集 本編の編集 試写
- 10 日目(8/16) 企業見学(高津装飾美術、東京現像所)



<作品紹介>

- 1 「俺は宇宙人」 脚本・監督…渡辺光太郎
キャスト： 直樹…上山周一郎 平次…鈴木僚介 父…夏目大一郎
【あらすじ】 直樹と平次は中学生の同級生で仲良し。直樹は「俺は宇宙人」と明かし土星へ帰ると言い、プレゼントの箱を渡す。平次が家に帰って箱を開けると……。男の子の友情物語。
- 2 「トラブル」 脚本・監督…塩谷万平
キャスト： 小野田美穂…菅生優奈 三井愛理沙…窪田あみ 国山浩…棚木庸平 奥山夏子…下手陽織 戒斗ヴィランダーク…小林大翔 悪魔1号…白石宙 悪魔2号…藤岡大輝 カフェの店長…福谷孝宏
【あらすじ】 拾った携帯電話が次々と事件を起す。それを悪魔が陰で監視しているというミステリアスコメディ。

<終了して>

今回は、調布中、神代中、三中、四中、五中、六中、東京都市大学等々力中、明治大学付属中の8校から、男子7名、女子8名の15名が参加しました。公立中学校だけでなく、私立学校や学校以外の施設やメディア機関を通して募集をした結果、多くの参加者を得ることができました。学校や学年の異なる中学生たちが、目を輝かせひとつの目標に向かって真剣に取り組んでいる様子が印象に残りました。また、企業見学では、どんな時代の小道具もそろえる高津装飾美術、フィルムからデジタルへの最新技術を駆使し、大切なフィルムの保存と修復なども行っている東京現像所を訪れ、映画作りの現場や裏方の仕事の大切さを学びました。夏休み中の子どもたちにとって、学校では得られない貴重な体験ができたことと思います。

「数学おあそびサロン／数援隊」部会

～発足当時と現状を概観しますと～

部会レポート 森下政信

「数学おあそびサロン」



昔、どこかに置いてきた数学を、

もう一度取り戻したい **小中高生**！ ナンモンキモン 軟問喜問に挑戦は？

数学は苦手で、どうしたらよいか分からなくなった人、
結構面白いが、もうちょっと知りたいと思っている人、
ちょっと、ここを聞いてみたいと考えた人、
どんな動機でもよいです。

さあ、気軽に調布まで出かけてみましょう！

教科書または問題集などを持ってきて下さい。
手足を使って数学の問題を解くビデオを観て、身近に数学を楽しみましょう。

対象：中学生と高校生(小学5、6、および一般の方もどうぞ)

日時：毎月 第4日曜日(原則) 午前10時～正午

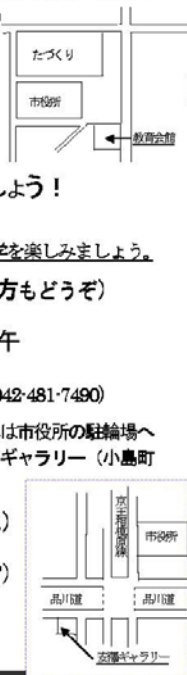
場所：調布市教育会館3階303研修室(TEL: 042-481-7490)

・エレベータを利用して直接3階に来てください。自転車は市役所の駐輪場へ
【希望者には、毎月第3日曜午後1時30分～3時、安澤ギャラリー(小島町3丁目)でも開いています。】

定員：会員制 10人程度(申込先は最下欄に)

入会金・会費：なし(ボランティア団体の運営)

私たちは調布のいくつかの中学校で
放課後、補習教室で応援しています。



協賛：調布市
申込先：NPO法人調布まちづくりの会「数援隊」
担当：森下政信 TEL&FAX: 042-483-9993
E-mail: mmasanob@sepia.ocn.ne.jp

裏面の問題を試してみてください。

発足当時を振り返って見ますと、「数学おあそびサロン」は2004年1月10日の朝日新聞地方版に写真入りで大きく採り上げていただき、2004年1月11日の市立図書館宮の下分館集会室で第1回を開催し、中学高校生から一般の人を対象にして、スタートしました。そして、来年、2014年1月には10周年の記念すべきときを迎えます。その後、ほぼ同時期に市内の第6中学校と第8中学校、さらに3年になりますが、調布からも通学している生徒がいる町田市サレジオ高専にも、放課後の補習学習に協力し、学校支援の活動を中心にした「数援隊(数学支援隊)」を、2006年に結成しました。

「数学おあそびサロン」は、場所を変え、調布市総合福祉センター、飛田給の調布市青少年交流会館と、現在は調布市教育会館と小島町3丁目にある安澤ギャラリー(仮称)にて、それぞれ月1回、合計2回開いています。また、受講者の対象を小学5年生まで広げて、子どもたちにとって、参加しやすくしました。2013年10月現在、数援隊メンバーはおよそ20名(調布まちづくりの会会員

は2名)で、「数学おあそびサロン」の会員はおよそ16名(小6名、中8名、高1名、一般1名)です。

「数学おあそびサロン」の開催日と会場は次の通りです。

①第4日曜日 午前10時～正午、調布市教育会館3階303研修室

②第3日曜日 午後1時30分～3時、小島町3丁目の安澤ギャラリー(仮称)

「数学おあそびサロン」は第4日曜日が行っていますが、希望者には第3日曜日にも参加できるようにしています。第3日曜日の会場には、大型テレビを設置し、数学にかかわるビデオや簡単な理科実験の映像を採り入れて、30分程度の時間を映像観賞にしています。

相互塾

～再開に向けて、少しずつあわせて検討しています。～

部会レポート 森下政信

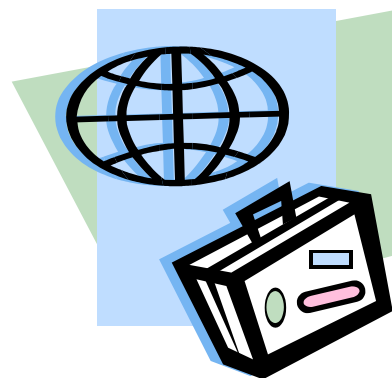
おしゃべりサロン「相互塾」は、発足後10年を経た2010年3月28日に、『10周年記念のつどい』を開催して、その役目を終えて休止していましたが、2011年10月ごろには、開催案内を送っていた人たちに募り、語り手の情報を提供する人たち32名と、相互にメールにて対話交流する人たち19名のグループを立ち上げました。また、映像と図書を媒介にした人の集まる場所（仮称“Video & Book Café”）



の設立を目標に検討してきて、まずは映像のみの試みとして、小島町3丁目にお住いの安澤様から部屋の利用を承諾を受けて安澤ギャラリー（仮称）にて、2013年4月から実験的に、その時々話題になっている映像を観ることから、「気楽な集まり」を月1回、第3日曜午後3時15分～5時に開催しています。

会場には、40インチのTVとCDからBDまで、ディスクであれば再生できる装置があります。70名程度の相互塾に関心のあった人たちにお誘いしていますが、現状では良い状況ではありません。もう一工夫しなければならない状態です。現在までは、・若い世代の地域活性化作戦、・インカ文明世界遺産、・ポルトガル音楽のファド、・江戸絵画のプライス・コレクション、・プラトンの「饗宴：原題はシンポジオン」で、飲みながらの対話、・万年時計とからくり人形・日欧の比較など、を採り上げてきました。

安澤ギャラリーには、オーナーの美術コレクションも置かれていて、美術観賞も楽しむことができますので、今後の場の発展に寄与するアイデアの発想が求められています。関心のある方たちの参加を期待しています。



2013年4月からの、「気楽な集まり」（仮称）の実績

- 4月21日：新世代が解く！ニッポンのジレンマ「僕らの地域活性化作戦」
- 5月19日：インカ文明世界遺産、エクアドル、ペルー、ボリビアを話題に。
- 6月16日：ポルトガルの民俗音楽のファドとポルトガルギター。
- 7月21日：東北で開かれていた「プライス・コレクション」展覧会のこと。
- 8月18日：プラトンの「饗宴」（原題「シンポジオン」は飲みながら話あうの意味）
- 9月15日：台風18号のため、中止。

地域の中の居場所づくり

中町テンミリオンハウス「くるみの木」

会員レポート 安部宝根



武蔵野市のテンミリオンハウスは、1年間1000万円を上限に市から補助金助成され、地域の実情に応じた運営を委託されています。現在市内に7か所あり、うち1か所は子どもの一時預かりの施設です。中町テンミリオンハウス「くるみの木」はNPO法人ワークズどんぐりが2008年10月から事業を受託しています。受託後5年を経て、評価委員会のテンミリオンハウスあり方検討委員会で受託事業者の見直し制度により、今年4月に市報で公募され、再度どんぐりが受託しました。

くるみの木は、日曜日以外の朝9時半～16時まで、自力で来所できる方は、どなたでも利用できます。中町という住宅街にあり、一見ふつうの民家と変わらない庭付きの1軒家です。隣には保育園があり子どもたちのかわいい声も時折きこえてきます。1食500円の日替わりランチは、65歳以上の方を優先し限定20名に、カフェランチはどなたでも食することができ400円で提供されています。地場野菜を中心に地域に根ざしたつきあいを目的で近隣の店から食材を調達し、スタッフが心をこめて調理しています。ゆずの部屋では1回100円で、午前・午後の2回、自立生活体操教室、月2回の健康マージャン、文章講座、パッチワーク、フラダンスなどのプログラムが用意されていて、1回100円で好きなときに参加されています。多くの方が、午前か午後のプログラムとランチを組み合わせ利用されているようです。



特徴は、地域の方々にもボランティアとして関わってもらっていることです。私たちが訪問した日は、庭づくりを利用者・地域ボランティアの方々（ガーデナーズ）が、ガーデニングの先生に指導をうけ、庭作業が行われていました。ハーブを中心に、菜園ではじゃがいも・さつまいも・ブラックベリー・ブルーベリー等も収穫できもちろん、それはキッチンで調理されランチやお菓子の材料となります。



くるみの木の元の持ち主は、市にデイサービスなどに利用して欲しいと相談され制度によって地域の人の集の家と生まれ変わりました。運営母体によって運営方法は異なりますが、1軒の家が、地域の交流の場となり誰もが集えることはうらやましい限りです。高齢単身者や高齢者のみで1軒家に住み、庭や家の手入れに困っている方々や施設入所されたり、子どもと同居のためなど、空き家の増加は都市の課題でもあり、居場所づくりの一つとして参考になるしくみです。

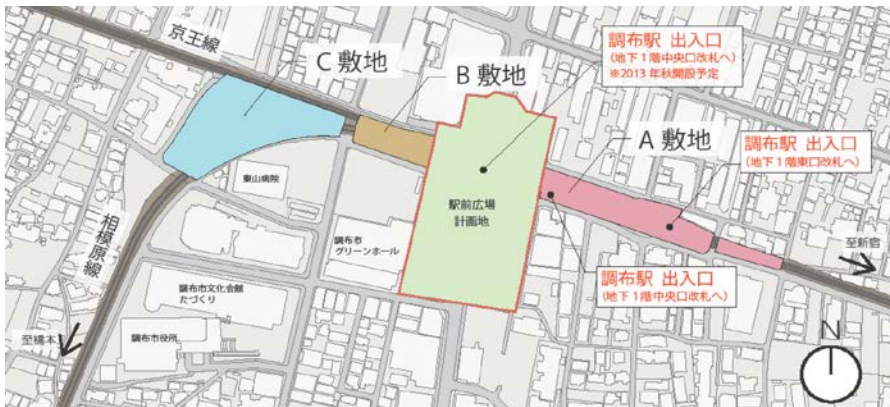
(7月11日、安部宝根訪問記)



2013年5月20日(月)、まち会(景観部会)主催で『まちカフェ“調布”2013「中心市街地他、調布のまちづくりを語ろう」』(会場:調布市総合福祉センター 4階 視聴覚室/18時半~20時半)を開催いたしました。

調布市都市整備部整備担当課長ら 市職員4人、まち会メンバー含め、参加者17名。「京王線跡地利用について」「調布駅・布田駅・国領駅前広場の今後について」「調布駅周辺の再開発事業について」約30分の説明の後、市民からたくさんの質疑が出された。しかし、この会の時点では、

調布駅周辺のビル開発等については、京王電鉄の意向がまだ明確でない状況であり、市からは提案はしていないとのこと。



しかし、3日後の5月23日、京王電鉄株式会社は、『拠点開発による「住んでもらえる、選んでもらえる沿線」の実現および調布市の中心市街地活性化を目指し、京王線調布駅周辺で複合商業施設の開発を進めます。』となる開発情報をプレスリリースした。

上図は、下記京王電鉄プレスリリースHPより引用・転載

http://www.keio.co.jp/news/backnumber/news_release2013/nr130523_chofu-kaihatsu.pdf

いままでの駅前広場の計画図では、駅前広場ばかり注目していたことを少々反省した。

以下は、過去の駅前広場説明資料(調布市HPへリンク)

<http://www.city.chofu.tokyo.jp/www/contents/1269579079055/index.html>

<http://www.city.chofu.tokyo.jp/www/contents/1269579079055/files/ref.pdf>

京王電鉄がつくる2017年竣工の調布駅3棟の商業施設の合計延床は約49000㎡という。大きいか、小さいか、適切か、これからどう共存するのか。期待と不安が一挙にやってきた。

編集後記

今回から、会員のレポートを中心に「まち会だより」を変えてみよう。スマホで読みやすい形の方がいいのでしょうか? いろいろご意見ください。

2013 秋冬号編集 鉄矢悦朗